

**米海軍佐世保基地の小学生を対象とした専門英語による理科実験教室**  
**Science School (International Science Park in Sasebo-Kosen) with Technical English for**  
**Elementary School Students in Sasebo Naval Base**

○柳生 義人<sup>1</sup>、西口 廣志<sup>1</sup>、石貫 文子<sup>1</sup>、中尾 充宏<sup>1</sup> (1. 佐世保高専)

○Yoshihito Yagyū<sup>1</sup>, Hiroshi Nishiguchi<sup>1</sup>, Fumiko Ishinuki<sup>1</sup>, Mitsuhiro Nakao<sup>1</sup> (1.NIT, Sasebo Coll.)

E-mail: yyagyū@sasebo.ac.jp

### 1. はじめに

グローバル社会と言われて久しい中、高専教育には、高度な工学的知識を身に付けるだけでなく、専門的な技術を英語を使って説明するコミュニケーション能力および対人交渉力、すなわち実践的な英会話能力を身に付けることが求められ、その重要性はさらに高くなると思われる。佐世保高専(以下、本校)では、知識活用力を涵養するために準学士過程 4 年生を対象に知識活用教育(知活)を実施しており、知活で取り組むコースの一つに専門英語による実践的コミュニケーション能力の習得を目標とした英語教育(国際技術者コミュニケーションコース)を設けている。本稿では、科学に触れる機会の少ない米海軍佐世保基地内の学校に通う小学生を対象に高専生が専門英語を用いて行った理化学実験教室の取り組み(International Science Park in Sasebo-Kosen)について報告する。

### 2. 本取り組みの方法

小学生の年齢に合わせて体験型の理科学実験を 15 テーマほど準備し、本校学生を 1 テーマあたり 2 ~ 4 名割り当てた。安全を配慮した上で出来るだけ少人数の学生を割り当てることで、会話の機会が増えるよう心がけた。本校学生は来校した小学生に対して、担当する実験テーマの概要をスライドにて紹介することとし、実験手順や原理を首尾よく説明できるよう準備・リハーサルを行った。プレゼンテーション用のスライドや方法・手順説明用の原稿は、事前に知活担当教員(本校教員および外国人講師)によって添削しており、リハーサルを通じて内容のチェックや理化学実験の動作確認などを行い完成度を高めた。また、本取り組みの成果についてはアンケートを通じて評価した。

### 3. アンケート結果

アンケートより本取り組みに対して好適な回答が多くを占めており(図 1)、英語を聞く力・話す力、外国人との会話に対する自信がついたなど、非常に好評であった。専門英語を用いて、担当するテーマを紹介・説明・実演・質疑応答することで、米海軍佐世保基地内の小学生に身近な科学に触れて頂くとともに本校学生たちは、実践的かつ専門的な英語コミュニケーション能力を涵養することが期待できる。本校でのグローバル体験は、海外工場見学旅行に代表されるように自らが外国に出向くことが多かったが、本取り組みでは本校にグローバルを呼び込むことに着目し、高専生が専門英語を使うきっかけを増やすことで、英語に対するハードルを下げつつ、実践的な英語力の底上げを目指す。

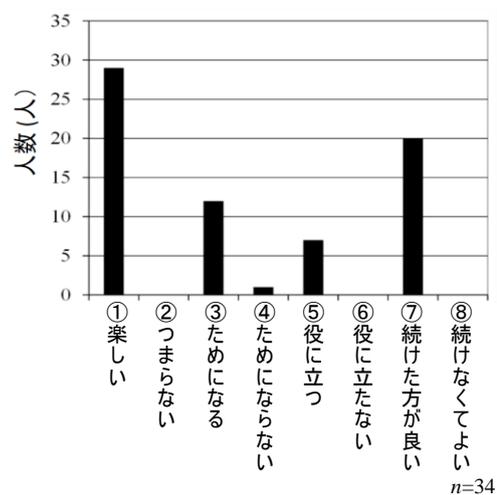


図 1 アンケート結果(2013 年)

謝辞 「インターナショナルサイエンスパークin佐世保高専」の実施にあたり、佐世保高専 須田淳一郎教授、森保仁教授、福田孝之教授、森田英俊准教授、三橋和彦准教授、重松利信教授、志久修教授、手島裕詞准教授、前田貴信講師、越村匡博講師、原久之技術長、山北久枝技能補佐員、外国人講師 J. Stocker 氏、K. Woodfin 氏、C. Hiemstra 氏の皆様に多大なご協力を頂きました。ここに記し御礼申し上げます。